

里親学生支援室だより NO. 30

発行日: 2025/9/24 発行元: 里親学生支援室



2025/8/25 (月)・26 (火)

彦根市・米原市方面での宿泊研修を実施しました！

「彦根市・米原市方面の医療と歴史・文化を学ぶ」と題し、8月25日(月)～26日(火)に夏期休暇期間を利用して、NPO法人滋賀医療人育成協力機構及び滋賀県医師キャリアサポートセンターと協同で宿泊研修を実施しました。猛暑の中での研修となりましたが、今回は本学学生21名(医学生14名、看護学生7名)と滋賀県立大学から6名の参加もあり総勢27名での研修となりました。

1日目

彦根市地域の方々とのワークショップ

彦根保健所の協力のもと、彦根市にお住まいの『彦根市精神障害者家族会集まろう会』など4団体の代表の方、当事者の方にお集まりいただき、ご自身の体験談を交えながら活動の内容などをご紹介いただきました。また、後半にはグループワークを行い、精神障害(疾患)の理解の大切さや、何でも話せる場所の必要性などを学ぶことができました。



当事者の方やご家族から直接お話を伺うことで、「どのような点を理解してほしいのか」「どのような点が難しいのか」といった生の声を聞くことができ、今後の実習にも活かしていきたいと感じた。

看護学部 第3学年

当事者の方やそのご家族の悩みや願望、医師には当事者の方から考えてどんな声かけや対応をして欲しいかなどの生の声が聞け、貴重な経験をさせていただきました。医学科 第1学年

米原市地域包括医療福祉センターふくしあ

米原・近江地域の地域包括ケアの拠点となる米原市地域包括医療福祉センター「ふくしあ」を訪問しました。中村センター長から病院の概要、実例を交えながら米原市の地域包括ケアの取り組みの歴史や、米原市初の病院保育の実現など、働く世代への環境整備の構築などについてお話いただきました。

医療機関の中で医療従事者として対面していたらきつと聞けないであろう、医療や医療従事者に対する本音をお聞かせいただき言葉の一つ一つが心に残りました。医学科 第3学年



湖北地域が抱えている問題とそれに立ち向かう医療従事者の生の声は、大学の講義ではなかなか実感の湧かない地域医療についてより具体的なイメージを掴むのにととても有益でした。医学科 第1学年

医療・福祉の現場の雰囲気や専門職の方々の工夫、地域ならではの課題などを直接感じられたのは、非常に貴重な経験だったと思います。医学科 第1学年

家族の生活をまるごと見守る地域医療の一部に携わるという自覚を持って患者さんと関わっていきたくと改めて決意するきっかけになった。人間看護学部 第4学年

里親学生支援のホームページ

(<https://www.shiga-med.ac.jp/~satooya/>)をご覧ください！

交流会 *魚清

訪問先の関係者の方々や行政の方々、里親の先生方、プチ里親の方にご参加いただき、学生と交流をはかっていただきました。貴重な意見交換、懇談の場となりました。



醒ヶ井地域散策

一日目の最後は中山道の61番目の宿場として栄えてきた醒ヶ井宿を散策しました。地蔵川には梅花藻が自生しており、猛暑の中での散策となりましたが、可愛らしい白やピンクの花を見ることができ、少し涼を感じることができました。



地域散策も良い経験になった。今回は醒ヶ井地域と彦根城の散策をしたが、地域の歴史や街並みを知ってその地域に魅力を感じた。医学科 第1学年

滋賀県に住んでいても行ったことのないところが多く、その地域を散策できてとても楽しかった。醒ヶ井地域の散策は少し時間が短かったのでまた自分でも行ってみたいと思いました。医学科 第1学年

彦根・米原エリアだけでも実に様々な医療の形があること、またそこに携わるキーマンの皆様の思いに触れることができ、これから滋賀県で医療を学んでいくことがより一層楽しみになりました。医学科 第2学年

2日目

彦根市立病院

中野院長からご挨拶いただいた後、病院の概要について説明をいただきました。病院毎の役割、病院の環境を守りつつ住民に愛される病院づくりの大切さ、今後この地域で完結できる医療体制の構築などをお話いただきました。続いて、在宅診療科の笹尾部長から、在宅診療についてご説明いただきました後、地域連携センターの西村副参事に看護師特定行為の実際の症例を交えて説明いただきました。最後に、3班に分かれて救急、循環器内科、手術室、ヘリポートなど院内を見学させていただきました。



医療従事者のみならず、地域の方々の取り組みによって、患者さんの居場所作りが実現できているということを実感しました。看護学部 第3学年



先輩方のお話もたくさん聞けて、医師の働き方もいろいろあるのだと、将来の人生設計の参考にもなり、参加して良かったと思います。医学科 第2学年

地域医療への貢献は私が大学への入学を決めた理由のひとつであり、その思いは変わらず持ち続けてきたが、地域医療の現状や課題についてわかっていないことばかりであったことを実感した。人間看護学部 第1学年

地域包括ケアセンターいぶき

米原市の山東・伊吹地域の地域包括ケアの拠点となる地域包括ケアセンターいぶきを訪問しました。畑野センター長からセンターの概要やセンター建設の経緯など説明いただきました。医療と介護を用いた施設であること、家で診ることを大事にしているため、ベッドを持たない無床診療所であることなど、医療者のための医療ではなく住民に喜ばれる・評価される医療であることが大事と学生へお話しいただきました。その後、2班に分かれて、センター内を見学させていただきました。



特に、地域で活動されている医療・福祉関係者の方々の熱意や現場の雰囲気を感じることが印象的でした。医学科 第2学年

実際に地域で医療に貢献する医師をはじめ施設スタッフの方々にお会いし、直接お話を聞いたことで、今回訪問させていただいた施設の存在というものが、どれだけその地域で暮らし続ける人々の安心を支えているかを感じることができました。医学科 第3学年

その人らしさやその地域に合わせた医療の提供の重要性を再認識した。将来看護師として働く際には、患者さんの気持ちに寄り添いながら、その人が地域で安心して暮らせるように、退院後の生活も考えながら支援できる存在になりたいと思った。人間看護学部 第1学年

研修の様子は里親HPにも詳しく掲載しています！！